

人は一生学び続ける

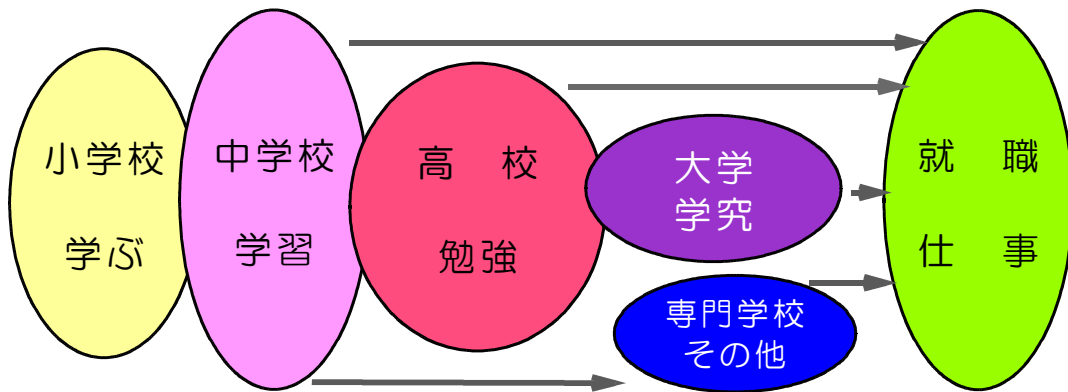


今日は皆さんに大事な話をしたいと思います。これから先の方々のヒントになればと思います。これを覚えてください。誰もが通らなければならぬ道を示したものです。小中学校は義務教育で日本に生まれながら誰もが受ける教育です。高等学校、大学は自分で選んでいく学校です。最近はお勤めをしている人達が多い気がしますが、義務と権利の違いです。社会科の時間で学ぶ機会があると思いますが、国民の3大義務とは何でしょうか。義務教育を受ける義務、就業の義務、納税の義務の3つです。この3つの義務を果たして初めて日本国民としての権利を得ます。皆さんはまだ、何一つ義務を果たしていません。それが大人との大きな違いです。では、それぞれの学校で、何をすれば良いのか話します。まず、小学校は「学ぶ」、中学校は「学習」、高校は「勉強」、大学は「学究」と書いてあります。

全体朝会講話より

成長・貢献・感謝

羽地中学校
学校だより177号
R2. 1. 31



学びの語源は「まねる」からきています。「まねる」が「まねぶ」になり「まなぶ」という言葉が生まれます。ですから、小学校では一生懸命にまねをする、ということですが。先生の言ったことを意味が分からなくてもまねることから始めます。字の書き方、計算の仕方などをまねていくのです。友達にしているのを見てまねをするのもその一つです。

中学校では「学習」です。「習う」という字は、上に「羽」(翼)です。下の「白」はワシのヒナの胸の毛がまだ生え終わっていない状態です。つまり「習」という字は、ヒナが飛びために羽を繰り返し羽ばたかせ、飛び練習をしている様子を表します。ですから「学習」とは学んだことを繰り返し練習し、身につけるとい言葉です。今、皆さんはまさにこの学習という時期にいます。

高校は「勉強」です。ここからは自分で進んでいくのですから、これまでの学習とはかなり違ってきます。「勉」という字は無理、我慢するということです。「強」は無理矢理という意味です。いやなことでも我慢し、一生懸命学ぶことにひたむきにつとめるということですが。当然、内容も難しくなっていくと思います。

次は大学です。大学は日本の最高学府で「学究」、学問を究めることです。物事の真理や本質をつかむ場所です。自分自身でテーマを探し、それについて自分で調べて答えを見つけ出すところです。4年間で極めることは難しく、「学問の究め方を身につける」ところでもあります。さらにもっと究めたい人は大学院に進むことが出来ます。そこを卒業すれば、博士の称号を得ます。

そして、前の図に戻って、最終的には就職することになります。就職の仕方はいろいろあります。中学校からすぐ社会に出る道、高校から社会に出る道、大学から社会に出る道と様々です。

就職し、仕事をするのがゴールに見えるのですが、仕事はどのようにするのか考へます。最初は先輩から仕事の仕方を学びます。要するに先輩の仕事をまねることから始めるのです。もう気づきましたか？

小学校と同じです。まずは、まねるので。そして、繰り返し、繰り返しやってみて、仕事の仕方を身につけていくのです。これは中学校と同じです。仕事が出来ようになるまで、どうしたらもっと効率よく仕事ができるか、嫌な仕事や辛い仕事にも耐えて、会社にとって必要な人になる努力をしなくてはなりません。これは高校と同じです。さらにもっと給料を上げたいと思ったら、新しいアイデアを自分で見つけ、会社が儲かるように仕事をします。大学と同じです。

人は一生、このサイクルから逃れられません。人間は学び続けるということですね。

最後に皆さんにアドバイスをします。皆さんからよく聞く言葉は、「面白くない」とか「楽しくない」です。勉強をはじめ物事には「楽しいもの、楽しくないものは、ない。」ということですが。「楽しいとき、楽しくないとき」があるので。楽しさは自分の取り組み方によって決まるのです。好き嫌いで判断するのはなく、どうしたら楽しくなるかを考えましょう。全て、自分次第です。こういう言葉があります。

「学ぶことの唯一の証は変わることである」

変わることは、成長すること。この言葉の意味を皆さんが理解し、皆さんが成長すればと思います。

学ぶことは変わる